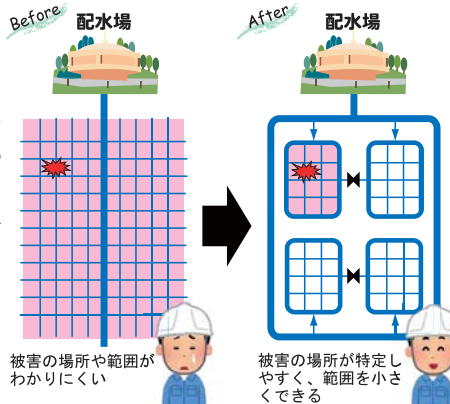


「配水ブロック化」って、なあに？

配水ブロック化とは、市域をブロックに分けて、ブロックごとに1か所から水を入れ、水量や水圧を管理するしくみのことです。

豊中市では、昭和54年度(1979年度)から配水ブロック化に取り組みはじめ、現在は「豊中市水道施設整備計画」に基づき、市域を44ブロックに分けて順次整備を進めています。

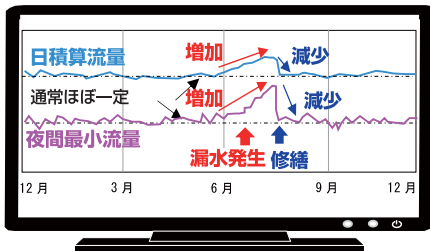


配水ブロック化には、どんな効果があるの？

1 漏水をいち早く見つけれられる！

主要な水道管から各ブロックへの入口に流量計を設置し、水量や水圧を時間ごとに毎日記録し、監視しています。ブロック内で漏水が発生すると、使用量が少ない夜間に水が出続けたり、流れる速さや圧力が変わったりするので、どこでどんな規模の漏水が起きているかが分かります。

大切な水をできるだけムダなく届けられるので、豊中市の有収率(配水した水量に対する、料金収入があった水量の割合)は97.2%(令和元年度実績。令和3年度は98.3%)と、全国平均の89.8%(令和元年度実績)を大きく上回っています。



監視記録データの例

2 災害時に早く復旧できる！

地震などの災害が発生し、水道管が被害を受けると、漏水が発生します。その際、被害の場所や大きさなどをすばやく知ることができ、ブロック単位の応急復旧作業を計画的に行うことができます。

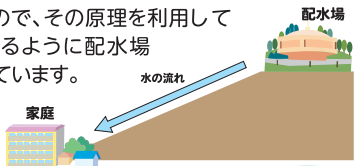
また、普段はブロック間のつなぎ目をバルブで閉じていますが、災害が発生した時は、被害が少ない近くのブロックとのつなぎ目を開けて水を入れることで、断水地域を最小限にできます。

バルブを開けるときは、音を聞いて慎重に...

水道豆知識

「自然流下」といいます

豊中市の地形は、北が高く、南に向かってゆるやかに低くなっています。水は高いところから低いところに流れるので、その原理を利用して水道水を送れるように配水場を北部に設置しています。



配水場がなぜ北のほうに多いの？

豊中市の水道管を全部つなぎ合わせると、およそ816km。直線距離にすると、豊中市から青森県までにあたります。



市内の水道管の延長は？

一日平均およそ12万m³の水道水を使っています。25mプールでおよそ300杯分です。



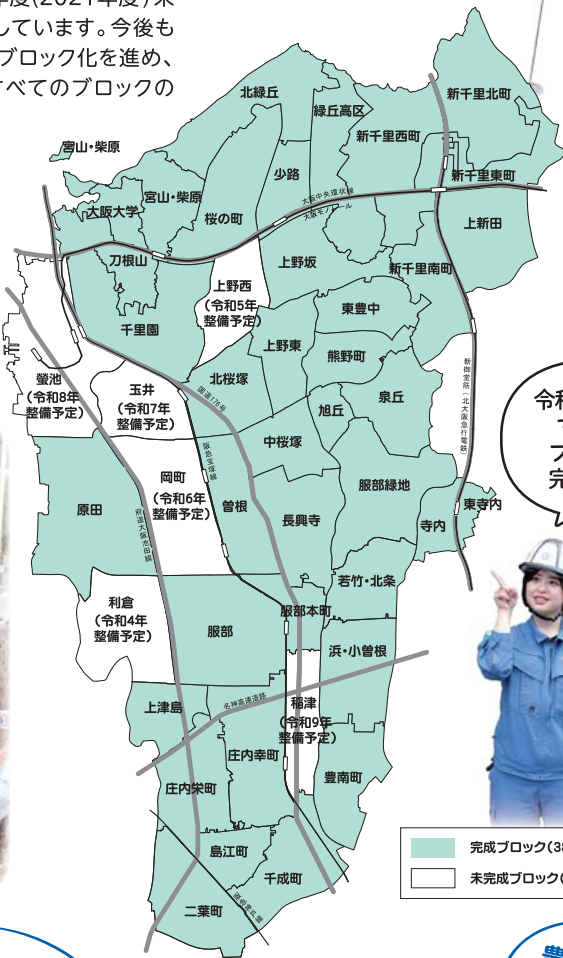
豊中市全体で一日に使う水の量は？

計画的に水道管を整備しています



これからの計画は？

44ブロックのうち、令和3年度(2021年度)末時点で38ブロックが完成しています。今後も同計画に沿って年間1か所のブロック化を進め、令和9年度(2027年度)にすべてのブロックの完成をめざしています。



漏水してないかな？



令和9年度にはすべてのブロックが完成します

